

蛍の光

5月中旬、ホタルカズラを見にいきました。

ホタルカズラは、丘陵地の乾いた草地などに生育するムラサキ科の多年草で絶滅危惧Ⅱ類(VU)の貴重種です。

ここは、7年程前に自然環境調査部会植物班の方が保護柵を設置した場所です。

以前は20株程自生していたそうですが、年々減少しているということで、2年前に植物班の方とホタルカズラが好む環境に近づけるための整備を行いました。

その成果もあって、今年、株数も増えて長く伸びた茎も多数見られました。そして更に、咲き終えた花の名残も★

来年のために堆積した落ち葉を取り除いていると、ホタルカズラの根元に古い葉が残っていました。

開花期を逃した私にとって、枯れたからこそ目立つ葉の組織の一部が、少し早い夜空に瞬く蛍の光に見えました。

ホタルカズラの名は、花の色を蛍の光に例えたことが由来です。来年こそ、花を確かめたいと思います。



半夏生～はんげしょう～

夜空を舞う蛍の時季が終わりに近づくと、半夏生です。半夏生とは、夏至から11日目にあたる日をいい、今年は7月2日です。半夏という植物が生じる頃なので、半夏生となったと言われています。

日本独自の気候や風土に合わせて作られた暦の一つで、古くから「この日までに田植えを終わらせる」農作業の節目として使われ、田植えが終わった後の数日は、

休養をとり、地域それぞれのご馳走を食べて栄養を蓄えたようです。「本格的な夏がやってくることに備える」という意味もあったのでしょうか。

先人の自然を見る目と豊かな感性、そして自然と共に暮らしてきたことが分かる暦。今年は、半夏の花に出会えるでしょうか？



← カラスビシャク
(サトイモ科)

半日陰から日当たりの良い畑地などに生える多年草。根茎は漢方で半夏という。独特の花の形を柄杓に見立てたことから烏柄杓。ある方言集には「へそくり」「ひやくしょーなかせ」、「からすのおっぺっぺ」など100個程の方言が掲載されている。



← ハンゲショウ
(ドクダミ科)

水辺や湿地に生える多年草。半夏生の頃に花が咲くから半夏生、葉が半分白くなるから半化粧ともいう。

東京都レッドデータブック西多摩エリアでは、情報不足(DD)の種。全国各所に植栽されていることから、自然分布の実態がつかめていない。

ある方言集には「かたじろ」「みつじろおしろいかけ」など20個程の方言が掲載されている。

第16期 森の子コレンジャー 始動



5月の快晴の良き日、コレンジャーが始動しました!

「自然が好き」という10名の仲間が集い、これから3月の終了式まで共に活動していきます。

5月は、共に活動していく仲間とレンジャー2名を知る一日を過ごしました。季節の自然を調査すれば、帰る頃には初めてとは思えない位、お互いを知ることができる。それが、自然好き仲間の良いところ♪

6月は、コレンジャーが代々整備を続けてきたビオトープの自然調査と山歩きでした。「ビオトープの整備をやりたい!」と、みんな手を挙げてくれたので、冬に実施する予定です♪

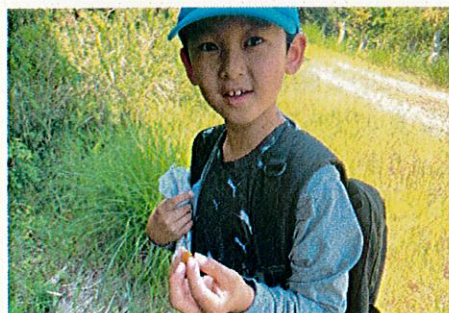
次回は9月。どんな夏を過ごしたのか報告し合えることも楽しみです!



リーダーがコレンジャーの心得を説明



コレンジャービオトープに出会う



森の匂を少しだけ味わう♪



季節の植物を学ぶ



安全に山を歩く方法を知る



ユキノシタ

ユキノシタ科の多年草。5、6月の活動どちらも花を確認しました。葉っぱはフワフワで気持ちいい♪



モリアオガエルの卵

成体は確認できませんでしたが、今年もコレンジャーのビオトープに産卵してくれました!



オオブタクサ駆除

下山中、市の管理地に重点対策外来種(※)のオオブタクサを発見したため、コレンジャーと駆除しました。雨のあとは、抜根しやすい!

※ 生態系に甚大な影響が予想されるため、対策の必要性が高い外来種。